

きたすじ
北筋地区の本町地蔵

去る5月24日（金）、県立有田中央高等学校南側の県道沿いにお祀りまつされている北筋地区の本町地蔵で、会式が行われました。このお地蔵様は、かつては現在地のすぐ北側にあったハゼの大木の根元の洞うらに祀られていましたが、木が枯れ始めたことから、約40年前に祠ほこらを建てて現在のようにお祀りし直したそうです。会式もその時から始められたようで、毎年5月24日に行われています。

由来については明らかではありませんが、吉備町誌によると大変靈験あらたかなお地蔵様で、遠方からお参りに来る人が多いと記されています。地域住民の皆さまからも、交通量が多い場所であるにも関わらず、



これまで大事故がなく過ごしているのはお地蔵様のおかげだというお話が聞かれました。

本町地蔵として信仰されているのは、祠を建てた時に新しくされたお地蔵様と古くからお地蔵様として信仰されてきた古い石塔とがあります。古い石塔は、2つの異なるものが組み合わされています。上部の石塔は板碑いたびと呼ばれるもので、頭部は欠けていますが本来は三角形をなし、その下部に2本の横線や梵字ぼんじが刻まれています。町内では、南北朝時代（1336～1392）以降に流行した供養塔です。下の石塔は、宝篋ほうきょういんとう印塔と呼ばれる供養塔の基礎の部分で、蓮はすの花弁が刻まれています。板碑と同じく南北朝時代以降に多く造立されました。

会式の前日には、北筋地区8班の皆さまによって餅つきなどが行われました。当日は午前中から準備が行われ、16時からは読経や焼香などのお勤めの後、北筋公民館前に移動して餅まきが行われました。地区内外から大勢の方が参加し、盛大な会式となりました。



古い石塔(高さ45cm)



広告 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。